

千葉大学医学部附属病院で消化管腫瘍に対する 内視鏡治療を実施された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年1月17日

消化器内科

消化器内科では、消化管内視鏡治療における Red dichromatic imaging (RDI) の有用性に関する研究を行っており、以下に示す方や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2018年4月1日～2025年6月8日の間に消化管腫瘍に対して内視鏡的
粘膜下層剥離術を実施された方

1. 研究課題名

「消化管内視鏡治療における Red dichromatic imaging (RDI) の有用性の検討」

2. 研究期間

2025年承認日～2031年3月31日

この研究は、附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

本研究の目的は当院において、比較的新しい技術である Red dichromatic imaging (RDI) を用いて実施された上下部内視鏡検査および治療における治療成績や有用性を明らかにすることです。RDI は近年になり導入された新規の消化器内視鏡用の観察モードであり、長波長帯の光を照射することで出血や血管などをはじめとした様々な対象物の視認性が向上する事が期待されています。本研究では主に内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) における粘膜下層の視認性の向上について検討を行います。

また本研究により RDI の有用性が明らかになることによって ESD 技術において、広く日

本で実装されている本技術を用いることで安全性や治療精度が上昇することで治療を受ける患者さんにおいても利益が大きいものであると考えています。

対象は RDI や通常の内視鏡で用いられるモードを使用して内視鏡的粘膜下層剥離術が実施された患者さんです。対象となる患者さんにおいて通常診療の範疇で実施された情報について後方視的に解析を行います。

4. 研究に用いる情報の種類

本研究で用いる評価項目は診療録に記載されている以下の項目です。

身長、体重、年齢、性別、生年月日、血液検査値、病変の部位、肉眼型、合併症、既往歴、薬歴、術前病変径、切除標本径、切除腫瘍径、術時間、使用薬剤量、RDI 併用による治療対象の視認性、RDI による剥離層の視認性、一括切除率、術中出血、術中穿孔、後出血、遅発性穿孔、最終病理診断、入院期間について評価します。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：消化器内科 診療教授 加藤順

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院消化器内科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。
情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

消化器内科 医師 齋藤 遼

043（222）7171 内線5241